

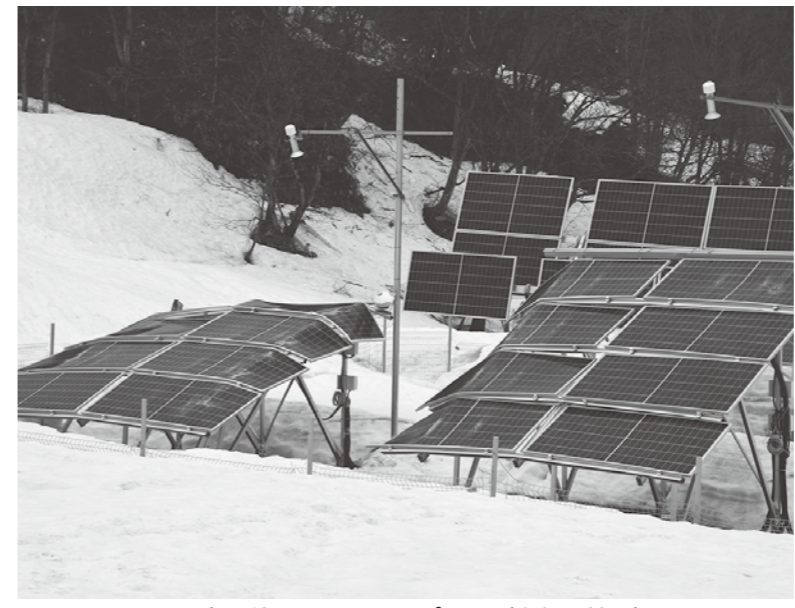


# 町の諸課題を問う

大山 一郎 議員

学校統合、時期にはこだわらない

町長



ひと冬を終えたソーラーパネル（次年子地区）

## 小学校統合

町の考えは。

町長 財政や児童数、複式学級等を踏まえ総合的に判断する。

## 太陽光発電

その後の進展は。

町長 実証実験の結果と質問に対する具体的な回答を待っている状態。また、県の林地開発許可が必要な面積を無許可で伐採したため、復旧するよう県から指示されているようだ。

## 学力低下

本県は「厳しい結果」と報道された。町の現状と対応は。

教育長 低下しているのは事実。私も先生方もショックを受けたが、向上に向けた取り組みを行っている。

町も意見書をつけて県に申請するが、今後計画が進むのか。

町長 実証実験の現場を見て、発電できるのかと感じた。

小学校も英語を教科化していくことになっている。取り組みは。

## 大石田スポーツクラブ

4月から総合型地域スポーツクラブが始まるが、部活動種目を中心に体系づけできなかったのか。

教育長 理想だと思うが、当町では難しい。まずはクラブを立ち上げ、多くの町民に参加してもらいたい。



大石田スポーツクラブ絶賛会員募集中！（スポーツ吹矢教室）



# 国に左右されるな

小玉 勇 議員

国の制度を活用するしかない

町長

## まちづくり

どのような町を目指しているのか。

町長 平成23年策定「第6次大石田町総合振興計画」では「美しい自然と共生し、安心して暮らせるあたたかいまち」を目指している。

また、平成28年「大石田町まち、ひと、しごと総合戦略」でも方向性は同じ。ただ計画期間や人口ビジョンの相違がある。



スーパー公務員となれ

リーダーシップをとるようなスーパー公務員を発掘すべきでは。

町長 独自のアイデアを出しながら「地方創生の絵柄」を描き、住民や地域を活性化し、行政が後押しすることは重要だと思ふ。しかし、行政がすべてを準備し実施するには限界がある。

国の施策の功罪は。町長 町政への一般質問で答弁することはできない。ただ「地方創生」を対象にしたコンサルタン

ト業が生業として成立していることは地方創生の趣旨としていかなるものかと思ふ。

## ふるさと納税

これまでの推移は。

町長 平成25年度6件137万円から始まり、本年度は9100件2億3千万円と大幅に伸びている。返礼品による地元経済への効果も大きく、寄附額の4割は町の主要財源として活用できる。



大石田町ふるさと納税 感謝を込めて特産品を進呈いたします

今後も増え続けますように…

今後の計画は。

町長 平成29年度から基金を活用した定住事業を展開している。返礼品の割合を3割程度との通知もあるが、町の経済、各種施策への自主財源の観点から大きく変えないで活用していく。

まちづくりの指針は。

町長 ぶれることなく、町民の目線に立ち、国の制度を利用すべき点は利用し町づくりを行っている。